

安保破棄ニュース

No. 519
2020. 7. 10

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒五四三-〇〇一四 大阪市天王寺区玉造元町一七一三
TEL 〇六-六七六-三三三三
FAX 〇六-六七六-三三八三
Eメール anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.anpo-osk.jp

従属的同盟からの脱却をめざして

日米安保条約・日米地位協定 60年6・23大阪のつどい



講演をする小泉親司さん



安保破棄大阪実行委員会主催で、現行の日米安保条約発効60年となる6月23日に「日米安保条約・日米地位協定60年6・23大阪のつどい」を開催しました。午後6時半開会で、大阪国労会館3階大会室にて行い、約40人の参加でした。

この日につどいを行うことは、かなり前から議論していましたが、新型コロナウイルスの問題があり、開催を決定したのが3週間ほど前、各団体、個人幹事への文書通知のみのお知らせだけを行い、事前申し込み制をとった取り組みでした。

沖縄から、沖縄統一連事務局長の瀬長和夫さん、名護平和委員会事務局長の上野郁子さん、ヘリ基地反対協事務局長の仲本興真さんの3人の方から連帯のメッセージをいただきました。

講演は、「安保60年、従属的同盟からの脱却を目指して〜コロナ禍を見据えて」をテーマに日本共産党基地対策委員会責任者の小泉親司さんに来ていただき、お話ししていただきました。

コロナ禍において、「こんな政権ではだめだ」ということがさらにはつきりしてきたということなどから話し始め、日米同盟は強固どころか行き詰っているということや、「安保法制」は市民の運動によって使えない状況になっていることや、陸上イージス計画停止理由の真実、辺野古新基地建設の行き詰まりなどから明確に話していただきました。また、日米安保条約や自衛隊についての考えは、野党の中でも様々だけど、「安保法制によって自衛隊は変質した。安保法制以前に戻そうというのが市民と野党の共通認識となっている」ということに



メッセージの紹介をする個人幹事の中野綾子さん

も触れられ、最後には、日米安保条約を廃棄した後、アメリカと対等平等の関係を築き、アメリカ言いなりの外交からも脱却し、ロシアとも平和条約を結び、中国、韓国との領土問題も解決し、北東アジアでの平和体制を築いていくことへの展望を話されました。

参加者からは、「運動の確信になりました。」「イージスアショアの白紙撤回の防衛大臣のウソなど知らない事が色々知れて、とても勉強になりました。」「話が具体的で面白かった」「時宜を得た貴重な講演でした」「安保の行き詰まりや展望など、わかりやすく元氣のでる内容だったと思います。」などの感想が寄せられました。



主催者あいさつ、守山事務局長

23 宣伝行動

2020年6月の大阪安保23定例宣伝行動を、6月23日の昼12時からいつもと同じく淀屋橋で行いました。継続的に行うようになってから通算で386回目の23行動です。この日は、現行の日米安保条約発効からちょうど60年となる節目の日で、それを機に、安保条約について考えていただきたいと、冒頭に訴えました。うたごえ協議会、大阪自治労連、日本共産党、大阪民医連、大阪憲法会議から弁士を出していただき、訴えとビラ配布を15人の参加で行いました。影のない場所で、気温が30度以上でしたが、5人の弁士による訴えはその暑さに負けない熱いものでした。

「軍事費増やしてもウイルスには勝てない」と訴えたり、沖縄慰霊の日にも触れたり、「この節目の日には平和について考えてみましょう」「市民一人一人の声が政治を動かしている」などと訴えたりしました。医療現場からのリアルな状況を示した訴えは、行動参加者からも「涙が出そうになった」というほどのものでした。

7月の23宣伝行動は、22日の水曜日12時から淀屋橋で行う予定です。



当面の予定

7月

22日(水) 大阪安保 23 定例宣伝(12:00～淀屋橋)
近畿安保合同会議(14:00～大阪安保)
大阪 AALA 総会(18:00～国労会館)

8月

5日(水) 常任幹事会 (10:00～ 大阪民医連会議室)
21日(金) 大阪安保 23 定例宣伝(12:00～淀屋橋)
22日(土) 原発0の会・大阪 学習講演会(15:00～民医連) 定員:80人
《今中哲二さん(京都大学複合原子力科学研究所)》

9月

2日(水) 常任幹事会 (10:00～)
23日(水) 大阪安保 23 定例宣伝(12:00～淀屋橋)

コロナ後の 社会を変えるのは 国民の底力だ!

安倍政権は、野党が会期延長を求めましたが、様々な野党からの追及を逃れるため、6月17日に国会を閉会しました。
そんな中でも、コロナ対策のための補正予算を、なお不十分さを残しながらも国民の実情を直視しようとする政府案を大幅に改善変更させ、「コロナ対策はまともにしない、国政私物化とは何

1000万人を超える新型コロナウィルスの世界的感染拡大により、いま、世界の在り方が厳しく問われています。
新自由主義、市場原理主義の下「自己責任」を問う社会保障制度削減の社会では人の命を守れない、武力に基づく覇権主義の下、いかに強大な軍事力を持っていても人の命は守れない。国際的な連帯が問われる時には、大きな障害となるのが、国民の大きな声と野党の共闘の力によって日本でも証明されました。

「ごとか」という国民の怒りが、検察庁法改定案をついに廃案とさせました。
また、憲法審査会は自由討論で1回開催されただけで、5国会連続、自民党改憲案を憲法審査会に提示させませんでした。
さらに、秋田・山口の国民の皆さんの運動がイーリス・アショア配備計画を「停止」させました。
これらは、国民の世論と運動、そして発展する野党共闘が大きく政治を動かしたものであり、今後の政治の在り方が厳しく問われています。
しかし沖縄では、6月7日の県議選において県政与党が過半数25議席を獲得し、改めて示された「辺野古新基地建設反対」の「民意」を顧みず12日には工事を再開し、高江や石垣島でも工事が行われています。
また、安倍首相は国会閉会后すぐの18日には「(総裁)の任期中に(改憲を)やり遂げなければならない」と表明して改憲への執念をあらわにし、米軍との一体化を進め「戦争する国」づくりを進めるために「敵基地攻撃能力保有」に向けての議論を進めようとしています。
コロナ後の社会を、何よりも人々の連帯と協力の下に築き直そうと求められている今こそ、「不要不急」の基地建設、軍拡、そして改憲の安倍政権を倒し、「従属的同盟」に代わる平和の枠組みをつくるため力を合わせましょう。

「とうきび」はじめました

大阪安保夏の事業活動「千歳のとうきび」ご注文受付開始しました。

9月中旬まで取り組む予定です。

ご注文は、注文する人と送付先の、住所、氏名、電話番号、お届け希望日時、注文数をファックスかメールで、大阪安保まで送って下さい。

※配達希望日は8月5日以降でお願いします。



25本入り：4,700円

10本入り：2,600円

(送料込み)

※要追加送料の地域あり